人権デーと世界人権宣言

毎年12月10日は、世界各地で「人権デー」を祝います。この日は、世界で最も重要な国際的な約束のひとつである「世界人権宣言（UDHR）」の採択記念日です。この画期的な文書は、人種、肌の色、性別、言語、宗教、政治的信念、国籍や社会的出自、財産、出生その他の地位にかかわらず、すべての人が人間として当然に有する、奪うことのできない権利を明記しています。

世界人権宣言は、1948年12月10日にパリで開かれた国連総会で公布されました。それには、人類史上初めて「万人に普遍的に保障されるべき基本的人権」を提示されています。

また、UDHR
は、「すべての人々とすべての国々が達成すべき共通目標」として、国際・国内・地方の法律や政策の指針となり、持続可能な開発のための 2030 アジェンダの基盤にもなっています。

宣言は、アブハズ語からズールー語まで 577
言語に翻訳されており、世界で最も多く翻訳された文書となっています。

世界エスペラント協会（UEA）の規約第5条には、次のように述べられています：「世界人権宣言および国際的に認められた諸文書に定義される、良好な国際関係と人権の尊重は、UEA
の活動に不可欠な条件である。」

また、UEA
は、国際連合経済社会理事会と協議関係を持つ組織として、母語を持つ権利や言語差別されない権利を含む、人権への擁護に関して、国連の取り組みを強く支持しています。

以上の趣旨に基づき、私たちは、2025年人権デーに寄せて、以下の声明を発表します。

2025年12月10日

国際人権デーに際しての世界エスペラント協会の声明

言語に関する人権：日常に欠かせないもの

世界エスペラント協会の規約では、以下のように述べられています

「良好な国際関係と世界人権宣言、その他の国際的に認められた文書に定められた人権の尊重は、UEA の活動にとって、不可欠な条件である。」

私たちは国連に対し、世界人権宣言を力強く擁護し、その完全な実現に向けて、継続して取り組むよう呼びかけます。

人権という理念は、すべての人が尊重され、共同体としても個人としても人生の目標を実現できる社会へと導く、最も強力で有効な手段です。だからこそ私たちは、世界人権宣言が示すように、「人種、肌の色、性別、言語、宗教、政治的意見、またはその他の意見、国籍や社会的出自、財産、出生、またはその他の地位にかかわらず」人間の尊厳と価値があり、また平等な権利があるという、揺るぎない信念を、繰り返し共同で再確認します。

人権は、日々の生活に不可欠なものです。その存否が、私たちの生活を形成します。国連人権高等弁務官フォルカー・テュルク氏は次のように述べています。「私たちは、人権と再び繋がり、人権が人々に関わるものであることを忘れてはなりません。それは人々のニーズ、願い、恐れ、そして希望や抱負に関わるものだからです。」

人権は、私たちが食べる食べ物、私たちが呼吸する空気、私たちが話す言葉、私たちが実現する機会、そして私たちが身を守る仕組みの中に息づいています。人権は、多様性の中で私たちを結びつける共通の基盤であり、私たちの生活の土台であり、私たち全員に関わる決断の指針なのです。

私たちは、言語に関する人権に特に注意を払います。それは、家庭での親密な会話から公的な議論に至るまで、日々の営みに深く関わっているからです。私たちは言語差別をなくすために行動すべきです。すべての人には、自身の言語共同体に参加し、自らの言語を使い、守り、発展させる権利があります。同様に、誰もが多言語話者となり、複数の言語共同体と交流する権利を持っています。

どの言語も共同体で実在するものであり、その実在を感じ取り表現する、アイデンティティと独自の方法を持っています。これは地域語、民族語、国際語を問わず、すべての言語に当てはまります。多言語の世界においては、私たちは、差別のない精神をもって、互いに耳を傾け、尊重し、協力し合うことができるように、多言語に関する人権を持たねばなりません。

世界エスペラント協会は、世界中にいる国際語エスペラント話者と支持者に対し、人権の尊重とそのための行動を、そして、その他の人々へ、連帯・相互理解・敬意を促します。私たち －

個人、共同体、民族 －
が、人権・正義・平等のために結束し、各国政府、社会の指導者、そして一般の人々にも同じ姿勢を求めていきましょう。